

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	みどりのき					公表日	R8年 3月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・適切な広さである。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		・必要最低人数+1の職員を配置している。 ・利用者の人数や状態に対し、職員の配置は適切である。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・施設全てバリアフリー化している。 ・十分バリアフリーである。 ・バリアフリー化されている。 ・毎日清掃と消毒を行っている。お掃除ロボットも導入し、さらに行き届いた清掃をしている。 ・事業所はバリアフリー設計になっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・毎日清掃、消毒を行っている。 ・毎日清掃を行っている。 ・衛生面には特に注意している。 事業所は毎日清掃を行い、オゾン燻蒸機を導入し清潔に保たれている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・興奮に対してクールダウンできる場所を準備している。 ・個室でも対応できるよう、部屋を分けられるようになっている。 ・突発的な興奮があった場合や個別で活動したい利用者は別室で対応できるようになっている。 ・不安定になった児童がクールダウンできるような場所があり、個別の対応が取れている。 ・興奮してしまいクールダウンが必要な場合や環境の変化に慣れない場合など別室で職員が支援できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	・業務改善を進めているが、勤務体系の都合上、全職員が参加できていない。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・毎年自己評価を行い、業務改善につなげている。 ・毎年自己評価を実施して業務改善に努めている。 ・毎年自己評価を実施し、保護者の意向を踏まえて業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・希望者には面談をしている。 ・業務改善に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・毎月職員研修が開かれている。 ・職員研修がある。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・HPで公開している。 ・公表されている。		

12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントをしたうえで課題、ニーズの整理をしている。 ・アセスメントを行い計画を作成している。 ・一人ひとりにアセスメントを行い、計画を作成している。 ・児童のニーズや保護者の思い等を把握し、計画に反映している。 ・個々にアセスメントをしている。個別支援計画に反映させて作成している。 	
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の申し送りを通して共通理解の下で考慮した検討が行われている。 ・日々の申し送りの時や支援記録、ケース会議を通して各職員の意見や支援を共有している。 	
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った支援が出来ていないこともある。 ・全職員が内容を把握できるように共有している。 	
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りや記録の確認はしっかりできている。 ・申し送りやノートを使用して情報を共有している。 ・申し送りノートや支援記録にきちんと記録し、共有している。 ・支援記録や申し送りで確認、共有している。 	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントを行い本人や保護者のニーズに合った個別支援計画を作成している。 ・本人や保護者のニーズに合わせた個別支援計画を作成している。 	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・行っている。 	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの活動やクッキングクラブは子供たちに人気である。 ・季節ごとの行事や政策が工夫されたものになっている。 ・季節ごとのイベント・制作・クッキングクラブ等を取り入れ活動を行っている。 	
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> 子供の発達段階に応じて集団におけるかだいを見つけ、個別支援計画に反映している。 	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有のツールはあるが全員ではない。 ・申し送りノート等のツールを用いて情報共有している。 ・ノートや申し送りで情報を共有し、連携して支援を行っている。 ・開始前ではなく、時間をみて情報共有している。 ・全員は難しいためノート等で情報共有している。 ・申し送りノートや支援記録を活用している。 ・勤務時間が異なるため揃って打ち合わせをすることはできないが、業務分担表で役割を確認している。連絡事項は申し送りノートで情報を共有している。 	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・当日に打ち合わせをすることは難しいが、後日行っている。 ・その都度情報を共有するようにしている。 ・申し送りノートにその日の出来事や共有すべき連絡事項を記入し情報共有している。 	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援については記録している。 ・日々の支援を記録しており、支援の改善につなげている。 ・職員間で共有したことを基に改善につなげている。 	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にモニタリングを行い全ての児童の見直しを行っている。 ・計画の見直しや保護者の要望に応じて計画を見直ししている。 	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流が課題になっている。 ・基本活動を組み合わせさせた支援を提供している。 	4つの基本活動のうち「地域交流機会の提供」が他の活動に比べて不十分であるという共通認識がある。自立支援や創作活動、余暇の提供には取り組んでいるものの、社会とのつながりを作る活動が限定的になっている点が課題である。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動を行いたいかわり選択できるようにしている。 ・自主性を尊重するような声掛けを行っている。 ・制作活動をする時などは、自分で考え選べるようにしている。 	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管や現場職員が会議に合わせて都度参加している。 ・参画している。 	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・体制を整えている。 	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・帰り際のやりとりや、学校行事にも参加し、情報を共有している。 ・情報を共有している。 	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・情報を共有している。 	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・計画相談支援事業所とも連携しながら進めている。 ・卒業先への情報共有を行っている。 ・卒業後スムーズに移行できるよう情報共有を行っている。 	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	7		地域の児童発達支援センターとの具体的な連携や、専門的な助言（スーパーバイズ）を受けられる体制が十分に構築できていない。職員が個々の支援に悩んだ際、外部の専門的知見を仰ぐ機会が乏しく、事業所内だけの判断に頼りがちになっている現状がある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	<ul style="list-style-type: none"> ・交流はない。 ・他との交流はない。 	放課後児童クラブや児童館との連携、および地域の子どもたちと共に活動する機会がほとんど持っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管が参加している 	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時に、事業所での様子をお伝えし、情報共有をしている。 ・支援につなげている。 ・お迎え時に事業所での様子を伝えていく。事業所の送迎で帰る方は何かあれば電話にて連絡している。 ・お迎えの時に様子をお伝えし、保護者との情報共有をしている。 	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	8	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は行っていない。 ・コロナ禍以降行っていない。 ・現在は行っていない。 	現在は家族支援プログラムや研修会の実施がほとんど行っていない。コロナ禍以降、対面でのイベントや集まりが制限された影響で、保護者への情報提供や家庭での対応力向上をサポートする機会が停滞したままであることが課題である。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に児発管、相談員より説明をしている。 ・行っている。 	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		個別支援計画を作成し、支援ができるように行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・同意を得ている。 	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時に家庭での様子を聞き、情報を共有している。 	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	8	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はなし。必要があれば検討する。 ・父母の会は実施していない。 	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった場合、迅速に対応している。 ・その都度対応できている。 ・体制は整えている。 	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回通信を発行している。 ・通信で日常の様子を伝えている。 ・行事予定や活動の内容の写真を掲載したお便りを月に1回発行している。 ・写真を多く掲載したお便りを毎月発行している。 ・お便りを月に1回発行している。 	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いには十分注意している。 	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達に努めている。 	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流がない。今後機会を作るなら検討していきたい。 	地域住民を招待するような開かれた行事の実施ができておらず、地域社会との接点が極めて少ないことが課題。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施している。 ・訓練を実施している。 ・訓練や職員研修を行っている。 ・発生を想定した訓練を行っている。 	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各訓練を実施している。 	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に薬の情報を頂き、周知している。 ・薬情報がまとめられていない。てんかんのある児童には対応マニュアルがある。 ・保護者に聞き取りを行って、既往歴や服薬について確認している。 	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用前にアレルギーの有無を確認している。 ・指示書の提出は義務付けていない。 ・アレルギーの確認を定期的に行っている ・医師の指示所に基づく対応が必要な児童はいない。 ・アレルギーの子供がいる際、別室にしたり、他の子にはアレルゲンの物に触れた後には手洗いをするよう声掛けしている。 	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・研修や訓練を行っている。 	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・面談時に非常時の対応について説明している。 	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止に努めている。 ・ヒヤリハット報告書を共有し、再発防止に努めている。 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の中で虐待防止研修を行っている。 ・職員の研修など話し合う機会が少ない。 	多くの職員が「適切な対応ができています」と認識している。一方で、研修内容を日々の支援にどう活かすかといった、職員同士で具体的に話し合う機会や事例検討の場が不足しており、知識の共有や意識の統一に課題が残っている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる児童はいない。 ・必要性があれば計画に記載する。 対象児はいないが、対応できるようにしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・現在、対象となる児童はいない。 ・現在該当者はいない。 	緊急時等、やむを得ず身体拘束を行う場合の判断基準や手続きについて、保護者への事前説明や組織的な決定プロセスが明確に定まっていない、あるいは全職員に周知しきれていない点が課題。	